

第8回こまつ創生会議 議事録（大要）

- 1 日 時 令和2年4月24日（金）
開会 10時30分 閉会 12時00分
- 2 会 場 小松市役所3階3B応接室、Web会議（リモート）
- 3 出席者 座 長 小松市長 和田 慎司
メンバー 角谷 淳子 氏
" 河南 恵美 氏
" 木場 紗綾 氏
" 佐無田 光 氏
" 塚本 直之 氏
" 村上 正史 氏
" 山中 宏昭 氏

事務局 総合政策部 国際&経営政策課
" 財政課

- 4 協議事項 (1) 第2期こまつ創生戦略について
(2) 20年ビジョン(仮称)の策定について
(3) その他事項

5 議事の概要

- 新任メンバー（木場氏）紹介・あいさつ
- 座長あいさつ
- 協議事項

(1) 第2期こまつ創生戦略について

(事務局説明)

前回会議（3月19日）での意見やその後の社会状況等の変化を内容に反映した。
・教育産業の概念の広さやまちの賑わい指標、産業観光の強化、デジタルアクセス、仕事でのシニアの活躍、女性の起業とフォローアップ、感染症を含めたリスクとレジリエンス、エネルギー改革などを政策やKPIに反映

- ・新型コロナウイルス感染症(以下「本感染症」と記載)により、今後、経済に関する指標など現実合わない点が出てくる可能性もあるため、内容は適宜見直し、修正していく見直しのメカニズムを明記してはどうか。
- ・本感染症の状況を踏まえて、市民の視点で内容も加えていくことがより大切。一方で、本感染症だけを意識するのではなく、現在の戦略案を尊重し、小松市の良さもより引き出していく必要がある。
- ・リーマンショックの際に世界的な金融危機を経験し乗り越えることができたが、今回の本感染症は未知の危機であり、戦略内容の見直しは難しいと思われるが、社会の状況を少しでも反映できればよりよい。
- ・本感染症で、首都圏の一極集中の脆弱性が露わとなり、地方の必要性が増している。今後小松市のような大都市以外の地域のプレゼンスが重要になる。
- ・テレワークなどの導入や普及拡大を目指す企業への支援が今後大切になると考える。
- ・就職を控える大学生を中心に移住の相談件数が 1.5 倍に増加しており、若者の雇用などについても考えていく必要がある。
- ・様々な場面で生活様式が変化すると考えられるが、まずは命や生活を守り、経済的な格差などをなくすことが肝要である。
- ・指標について、人生 100 年時代の中で、シニア世代は、社会を支える重要なファクターになる。シニアの就業率の指標に関して、数量としてだけでなく、その仕事の内容などにも着目してほしい。
- ・人口推計についても、いきいきシニア率や教育を受ける若者、子育て世代に関する数値や目標など、より人口の構成内容が重要となる。
- ・世界を見ると、エネルギー改革を大胆に推進する地域も見受けられる。小松市においても、クリーンエネルギーの拠点を増やすなどの指標を示してはどうか。

(2) 20 年ビジョン(仮称)の策定について

(事務局説明)

20 年先の 2040 年を見据え、次のような様々なチャンスや脅威、社会変化等を想定しながら、20 年後の将来ビジョン策定を進めている。

- ・北陸新幹線の金沢開業、そして県内全線開業に向けたタイミングで 2 度のビジョンを策定。次期ビジョンは大阪までの全線開業を捉えていく
- ・機会では、新幹線開業や宇宙、教育改革。脅威では、感染症リスク、一極集中、

気候変動や災害、貿易戦争などへの対応や変化が挙げられる

- ・次期ビジョンではこれまでの4つの視点に、新たに「うつくしい」の視点を加える。また、本感染症を踏まえ、テレワークやデジタルアクセスなどの社会変化も反映していきたい

- ・本感染症により、都市の作り方や在り方に新たな視点がもたらされた。都市部では、都市機能により課題解決のサービスを生み出してきたため、ほころびがあれば一気に崩壊を招く恐れがあることが表面化した。
- ・本感染症の経験は、人々の意識も変えることになる。「うつくしい」という言葉は特に共感が得られると思う。
- ・これから数年は、経済や衛生、命のリカバリーが必要となるのではないかと。命・事業・地域社会を守り、新幹線開業の恩恵を受けられる状態にしていかなければならない。
- ・本感染症をはじめ、様々な社会状況への対応力と適応力を備えることが重要になるとともに、さらに長期間にわたるあらゆる脅威を想定し、予測できないリスク等への対応を考えていくことが重要となる。また、それぞれの課題等に個別に対応してだけでなく、社会全体で取り組める仕組みを構築していく必要がある。
- ・本感染症を通じて、改めてコミュニティや家族、人と人とのつながりの大切や尊さに気づき、求められるようになったと考える。
- ・小松市をはじめとしたゆとりある地域には、コミュニティや人びとの結びつきや、豊かな自然環境や多様な食文化がある。こうした環境のもとで、例えばシニア世代が仕事のみならず社会で大いに活躍しながら、若い働き手もより働ける環境が構築されるとよい。
- ・世代を超えて、多様な市民が参画できるような社会を描いてほしい。
- ・新幹線開通の一方、小松市の特長である空港を中心に、北陸地域の広域連携の中心となる将来像も大きく描いていくとよい。
- ・サステイナブルやレジリエンスという新しい方向性が出てきているが、これまで掲げてきた「国際都市こまつ」や北陸断トツのまちなど、心に訴えるフレーズは、ぜひ次にも残してほしい。
- ・本感染症により、国際社会が内向きなる懸念はあるが、小松市においては、国際化の旗を降ろさず、北陸の世界の玄関口であり、多様性社会のモデルになってほしい。
- ・本感染症を通じて情報・デジタルの重要性や影響力はより大きく、今後もより一層高まると思われる。AIやIoTの活用だけに留まらず、情報技術をベースとしたガバナンス力を高めていく、一歩進んだ社会像を描いてはどうか。

(3) その他事項

(事務局説明)

- ・本感染症への対応や方策などを戦略の内容にさらに深く盛り込んでいくとともに、本感染症の状況を鑑みながら改めて会議を開き報告する。
- ・本日の会議による意見等は、事務局でとりまとめ、後日市ホームページで公表する。